

編集後記

『日中語彙研究』第7号をお届けします。ご投稿くださった方、執筆を快くお引き受けいただいた諸先生方に衷心より御礼申し上げます。

今号は〈巻頭インタビュー〉を設け、石田卓生氏による愛知大学『中日大辞典』編纂に従事してこられた今泉潤太郎先生への、初期愛知大学の中国語教育についてのインタビューを載せています。また今泉潤太郎先生からは本誌第4号に続き、初版の印刷と刊行について「資料による中日大辞典編纂所の歴史 5」と題した玉稿を寄せていただいたのも幸甚の至りです。〈研究論文〉のうち花友萍・張茜茜・丁治民の三氏による「《永乐大典》所采录《孙氏字说》考」は緻密な比較分析を行ない、『永楽大典』に採録される『孫氏字説』の成立した時代と内容の由来を明らかにしています。王建軍氏による「词义的状态、词义的过滤与词典的释义规范」は市販の漢語辞典を例として、語彙解釈における濾過と抽出の過程を経て語項目として辞典に収録されるという方法を考察しその問題点も指摘しています。劉克華・李陽の二氏による「アドバタイジング・スローガンにおける言語行為について」は言語行為論の視点からジブリアニメのキャッチコピーを考察します。また、今号には日中同形語の比較に関する研究論文を二篇掲載しています。顧令儀氏の「日語的「利用」和汉语的“利用”」と呉夫迎氏の「中日同形語“牺牲”と“犠牲”についての比較研究」です。両論文とも日中語のコーパスや辞書を利用して用例を収集するほか、実際に公共施設で目にする標示の使用例に中国語訳を付してみることで、そのまま中国語の同形語にならないことを示しそれを研究の出発点にしています。日中同形語についての研究は決して新しいテーマではありませんが、このような地道な研究による教育現場における効果が期待されます。〈新語録〉では趙蔚青氏による「2017年中国の新語・流行語」が、各種のメディアで発表された新語・流行語のランキングの上位に共通しているものを取り上げ紹介しています。〈動向〉では施暉氏による「中国における日中語彙対照研究の動向 2017」が、中国国内の学術誌に掲載された研究論文および刊行された学位論文や著書の中から日中語彙対照研究の最新研究を紹介しています。

これからもさらによいものを目指していきたいと思いますので、どうか皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。
(編集委員会)

『日中語彙研究』第7号

2018年3月30日発行

編集・発行 愛知大学中日大辞典編纂所

名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777

Tel. 052-564-6122 Fax. 052-564-6222

<http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/>

組版 株式会社あるむ